グアム・ジーゴ神殿の奉献日程を発表

――海の島々の聖徒たちに神殿の祝福が注がれる――

グアム・ジーゴ神殿

大管長会は，西太平洋に位置する米国領グアム・ジーゴ神殿のオープンハウスと奉献の日程をこの1月に発表した。

同神殿は2022年5月22日（日）に奉献式を行う。十二使徒定員会会員のデビッド・A・ベドナー長老が奉献の司式を執り行う予定。奉献式は午前9時，正午，午後3時の3セッションに分けて行われる。

奉献に先駆けて5月4日（水）からオープンハウスが始まり，日曜日を除く5月14日（土）まで神殿の内部が一般公開される。奉献式直前の5月21日（土）には，青少年ディボーショナルが開催される予定である。

2022年の年頭メッセージでアジア北地域会長会は，「すでに完成しているグアム・ジーゴ神殿と東京神殿の奉献は，今年中にできるのではないかと考えています」と述べている。その奉献式の一つが実現の運びとなる。

東京から南南東へ約2,500km離れたグアム島，その北東部に位置するジーゴ神殿は主に，アジア北地域の一員である北マリアナ諸島，パラオ，ミクロネシア連邦の海の島々の聖徒たちに神殿の儀式を提供する。グアム・ジーゴ神殿は，2018年10月の総大会でラッセル・M・ネルソン大管長により建設が発表され，2019年に起工した。◆

さらなる家族歴史探究の可能性

――2010年戸籍法改正により，除籍謄本の保存期間が150年に――

ラズバンド長老

アジア北地域会長会は，2022年に期待される新たな神殿の奉献（再奉献）と，既存の神殿の段階的な儀式の再開に向けて，さらなる家族歴史の探究を進めるよう呼びかけている。

特に日本では，戸籍法の2010年の改正によって，戸籍に記載されている人が亡くなり除籍となってからの保存期間が，これまでの80年から150年へと大幅延長された。そのため，2010年以前に請求した際には出せないと回答された1930年以前の除籍謄本が，現在は入手できる可能性がある。また自治体では書類のデジタル化が進んでおり，電話による問合せで謄本の存在を確認できるケースも増えてきた。戸籍法は将来再び変更される可能性もあり，今は得難い機会とも言える。

地域会長会第一顧問のジェームズ・R・ラズバンド長老は次のように呼びかける。「戸籍法が改正されたことによって，過去に入手できなかった記録を受け取れる可能性があります。何十年以上も前に，取れるすべての謄本を入手したと思っている会員でさえ，見たことがない謄本の記録を見出せるかもしれないのです。そして，その記録の中から，今まで知らなかった先祖の名前を見つけることができます。大きな扉が開かれたと感じています。ぜひ，今年，会員の皆さんが，もう一度，自分の先祖の謄本を探求し，待っている先祖を見つけ出してほしいと思います。」◆

Single Adults――若い世代と先祖

自分だけのものではない命を受け継ぐ

――４世代前の宣教師と求道者の子孫が奇跡的に出会って――香川優来姉妹

ユタ州バウンティフル神殿で先祖の儀式を進める香川優来姉妹とブランドン・保喜兄弟

高校３年の５月だった。爽やかなそよ風が吹く晴天の午後，自宅で映画を観ていた香川優来さんの横で母親が泣いている。

「この家，出なあかんようになった」

「え，そんな急に!？ なんで言わんかったん?」

「言おう言おうと思っててんけど，よう言えへんかったんや……」※1

小学校に上がる前から育ってきた思い出の詰まった家を追われる――優来さんにすれば寝耳に水である。「そのときは，幼い頃からの世界がいきなり全て崩れてなくなるような感覚でした。」

＊＊＊

香川優来さんは３人姉妹の次女として大阪に育った。優来さんが５歳の頃，父方の祖父が，「こんぴらさん」で有名な金刀比羅宮のある，香川県仲多度郡琴平町で営んでいた文房具商の会社を，将来的には父親に継いでほしいとの話が持ち上がった。祖父に大きな家を建ててもらって一家で香川に移った。やがて思春期を迎えた優来さんは自分の将来像を描きはじめる。「英語を使って海外で活躍しているビジョンが何となくあって，それに近づくために頑張って英語を勉強したいなと思っていたんです。」勉強，特に英語と歴史が好きで，高校は地元の進学校に進む。明るいキャラクターで親しまれていた優来さんは学校でバンドを組んでボーカルとベースを担当。バンドメンバーだった一人の友達とは洋楽や洋画，留学の話で通じ合える部分がたくさんあり，互いに切磋琢磨する間柄だった。

丸亀支部にて，友達と優来さん，右端から，エリス兄弟，エクルズ長老

そんなある日，友達は戸別訪問で来た宣教師に，高松地方部丸亀支部での英会話クラスを紹介される。英語を学びたいのはやまやまだが，彼女自身も両親も宗教に対して警戒心があった。そこで声をかけられたのがフレンドリーで明るい優来さんである。彼女の英会話クラスへの付添人として選ばれたのだった。2013年のクリスマス，英会話を通じて教会との小さなつながりが生まれた。

人生真っ暗

ところで，学校での明るさとは裏腹に，10代なかばの優来さんの生活には暗雲が垂れ込めていた。2011年ごろに祖父母の会社の経営が行き詰まり，父親は失職する。やがて，幼い頃から見慣れてきた，昭和25年創業の社屋ビル兼祖父母の家も取り壊されてしまう。経済的にも徐々に困窮し，留守がちな両親に代わって幼い妹の世話もしなければならない。

2014年，高校２年の優来さんは海外留学に進路を定めた。留学費用の確保のためにアルバイトを始め，勉学に家事にと寝る暇もないほどの毎日となった。同時に，授業外でも英語力の向上が必須と感じ，ボランティアで留学生をサポートしたり，町で見かけるネイティブスピーカーに自ら話しかけに行ったりした。この際，教会の無料英会話も最大限に活用しようと思った優来さんは，毎週，丸亀の教会へ通うようになる。

「一応進学校だったので，友達は親が良い塾に通わせてくれるのに，何でわたしは大学費用も自分で稼いで，帰ったら妹のご飯つくって家事ばかりしなくちゃいけないの……自分の中では人生真っ暗な状態，っていう感覚だったんですよ。」ストレスが溜まって摂食障害となり，食べては吐く過食症にまで陥った。

そして高校３年，2015年の夏，自己破産した祖父の名義となっていた優来姉妹一家の家屋はついに財産処分され，住めなくなったのである。

輝きのコア

ちょうどその頃，優来さんは丸亀支部でニコラス・エクルズ長老という宣教師と出会う。「内側から輝いている人だったんです。すごく強くて，一皮剥けている……この人みたいになりたいっていう人に初めて出会いました。別に恋愛とかではなくて，純粋にこの人って何なんだろうって彼のことを観察するうちに，あ，ビリーフ（信条），価値観なんだって思ったんですよ。」それが彼の輝きのコア（核心，中心を成すところ）だと，エクルズ長老が転任する11月にようやく悟った。

後に「わたしの福音を宣べ伝えなさい」というテキストを読んだとき，そこに書かれているキリストの特質が，そのままエクルズ長老の輝いていたところだと分かった。「わたしは彼みたいになりたかったんじゃなくて，結局彼を通してキリストを知って，キリストのようになりたかったんです。エクルズは本当に真面目な良い宣教師でキリストの教えをちゃんと実践していたから，伝わって来てたんですよ，キリストについて何も知らないわたしにも。」

香川ご家族，優来姉妹（右端）の22歳の誕生日に

ともあれ，そのとき初めて，キリストの福音を知りたいという思いが優来さんの中に湧いてきたのだった。とはいえ，レッスンを希望することで宣教師のターゲットになることは避けたい。英会話前後のちょっとした時間を使い，さりげなく教義の話を聞いた。「自分の中ではものすごく，後で（聞いた教義について）考えたりしてたんですよね。……感じの悪い高校生ですけど（笑）。」

エクルズ長老の転任後，丸亀にやって来たのはアレック・ギブソン姉妹という宣教師である。彼女は改宗者で，優来さんの気持ちをよく理解してくれる人だった。強引なところもなく，優来さんが興味を持った部分だけ，分かりにくい概念も上手に噛み砕いて教えてくれる。改宗したいとは思わなかったが，彼女たちの生き方に好感を抱いた。神様はすべてをお見通しであると信じているからこそ，裏表のない人格が磨かれていくのだろう。「神様を信じる」――それは優来さんにとってハードルの高いこと。「でも，神様を信じて生きている人を見たら，すごく素敵だなって思うようになりました。」

おばあちゃんのプレゼント

高３の12月，母方の祖母が他界した。生前はあまり近しい関係ではなかったものの，学校を休んで山口県柳井市での葬儀に出席した。そこで優来さんは大叔母（母方の祖父の妹）と出会う。留学予定だと話すと，大叔母の娘さんが国際結婚をしてアメリカにいると教えてくれた。親戚に海外とつながりのある人がいるとは思いも寄らなかった。

その前年，ユタ州を訪れたと大叔母夫妻は話す。優来さんが宣教師と関わっていることを伝えると，「教会員って本当に良い人だよね，愛情に満ちてて。ユタに行ったとき，すっごく助けられたんだよね。」そんな言葉が返ってきた。

大叔母からの評判を耳にして，優来さん一家の末日聖徒イエス・キリスト教会に対する印象が好転する。優来さん自身，親戚の中に味方がいるように感じて力づけられた。それからは母方の親戚とよく連絡するようになり，カリフォルニア在住の大叔母の娘さんともつながって，後の留学時に大いに助けられることとなる。「今にして思うと，ばあちゃんが本当につないでくれたんだな，ばあちゃんからのプレゼントだったんだな……って。」

実はそこから，さらに予想外の祝福につながっていくとは，そのときの優来さんはまだ知る由もない。

肌で学んだ慈愛

年明けも目前，優来さんは留学に向けて追い込まれていた。留学先で言語学校に行っている余裕などない優来さんは，大学教育で要求されるTOEFL※2の成績要件をすぐにでも満たしておく必要があった。常に勉強し，常に何かを調べ，時間が少しでも空けばお金を稼ぐ，余裕のない日々。そんな優来さんの状況を知ったギブソン姉妹は「手伝えることあ

※1―「この家を出なければいけなくなった」「え，そんなに急に？　どうして言ってくれなかったの？」「今まで言おうと思っていたけど，どう言っていいか分からなかった……」

※2―英語圏の大学や大学院に入学を目指す人の「英語で学ぶ力」を測定するための世界基準テスト。120点満点

すぶ濡れで古民家カフェまで来てくれたときのカー姉妹（左）とギブソン姉妹（右）

ギブソン姉妹がくれたモルモン書

る？」と申し出た。大学の入学申請から学生ビザ申請まで，英語の難しい手続きを細やかに助けてくれる。

優来さんの家まで，丸亀支部からはゆるやかな坂を登って自転車で1時間ほどかかる。ギブソン姉妹と同僚のハイディー・カー姉妹は時間のない優来さんのために，自宅まで毎週，英語を教えに来てくれた。そして皿洗いなど家事を手伝って帰っていく。優来さんが質問すればこそ答えるが，二人から求められることは，「モルモン書を読んでください」も「祈ってください」も，何一つない。それは4か月にわたって続く。

2月のある土曜日のこと，忙しい優来さんを気遣い，バイト先の古民家カフェでの勤務後に英語の勉強を手伝ってくれることになった。ところがその日はあいにくの土砂降りとなる。古民家カフェは郊外の田園地帯にあり，この天候なら丸亀から自転車でゆうに2時間以上かかる。これはまずいと思ったが，勤務中で連絡を取ることもできない。宣教師は教会に行かないとWi-Fiもつながらない。……

約束の3時間後，午後遅くなってから，髪からスカートまでずぶ濡れで凍え切ったギブソン姉妹とカー姉妹が，白い息を吐きながらやって来た。カフェにヒーターはあるが，古民家なのでそれほど暖かいわけでもない。優来さんは思わず二人に熱いココアを出した。バイトが終わって暗くなるころ，自転車で20分ほどの祖父母の家へ連れていき，祖母に鍋料理を振る舞ってもらう。その日も二人はただ，優来さんの大学の手続きを助け，英語を教え，楽しく過ごして帰っていく。

「……もうすっごく優しかった。今思い出しても涙が出そうになるんです。本当にこんな人いるのかなって。ここまで自分のことを思ってくれる人……犠牲を払って，完璧な慈愛の模範を示してくれて。そのときに初めて，慈愛とはどういうものかを肌感覚で学ばせてもらったんです。」

二人に英語の添削をしてもらううちに，TOEFLは3か月で40点スコアアップという驚異の結果を出した。高校の卒業はもう目前だった。

琴平町，高灯篭の桜

わたしの代わりに

2016年4月，桜の季節が過ぎる頃，ギブソン姉妹がついに転任となる。この4か月，「彼女がもう毎週のようにうちに来て，毎週のように一緒に時間を過ごしていたので，大事なわたしの身体の一部をなくすような感覚に陥って，泣いて泣いて泣きました。」

そんな優来さんにギブソン姉妹は，「わたしの代わりにこれを使ってほしい」と真新しい英語のモルモン書を残していった。1冊分，どの章を見ても色とりどりのマーカーで線が引いてあり，説明も書き加えてある。「慈愛」「勤勉」「徳」といった「キリストのような特質」※3に関係する聖句が分かるようになっている。それは優来さんのためだけの特別なモルモン書だった。「たぶん転勤する前にものすごく準備してくれてたんだと思うんですけど，大好きな人の，人生で一番大事にしているものを渡してくれたから，すごくうれしくて。毎日肌身離さず読んで，（淋しさを）モルモン書で埋めるような感じでした。毎日読んでも新たな発見が常にあるんですよね。」

霊的な独立記念日

5月，少しレッスンを受け始めていた優来さんは，丸亀の宣教師に誘われて，高松で開かれたゾーン大会を訪れた。そこでエクルズ長老と再会する。その頃はもうバプテスマに心が動いていたが，「わたしなんかが本当に教会に入っていいのかな」というためらいがあった。モルモン書を難しいと感じることも多々ある，分からないことだらけの自分に自信がない……そんな思いのたけをエクルズ長老にぶつけた。

「でも優来ちゃん……この半年ですごく変わったじゃない。」エクルズ長老は優来さんがどれだけ成長したかに気づかせてくれた。エクルズ長老が転任した昨年11月に比べると，教義への理解も深まり，英語のレベルも上がっている。

信仰とは完全に知ることではない，育てていくことが大事だ※4と言うエクルズ長老。「優来ちゃんは十分トライしてるし，完璧な知識なんてなくてもいいんだよ。」その言葉に，優来さんの目から初めて霊的な涙がこぼれた。

「わたしはアレック（ギブソン姉妹）やエクルズ長老みたいになりたい，キリストのようになりたいって思ってる。だったらもうバプテスマを受けていい，って自分の中で許可を下ろすことができたんです。」

優来姉妹のバプテスマ会にて。左端にカー姉妹とギブソン姉妹。右端がエリス兄弟

2018年に紙谷兄弟と会えた優来姉妹
紙谷兄弟は2020年に逝去された

2016年6月，BYUハワイ校合唱団コンサート会場にてギブソン姉妹と再会した優来さん

1960年代の柳井支部扶助協会
前列中央が家室スミ子姉妹（優来姉妹の母方の祖父の母）

＊＊＊

翌6月，優来さんは学生ビザ申請の面接のために大阪の米国総領事館へ出向く。タイミングよく開催されたブリガム・ヤング大学（BYU）※5ハワイ校合唱団の大阪公演会場で，神戸伝道部会長補佐の長老に会い，優来さんのバプテスマ会にギブソン姉妹とカー姉妹が出席する特別許可を得ると，不安は何もなくなった。

香川へ帰るなり優来さんは宣教師に連絡する。「わたしバプテスマ受ける！」その言葉に誰もが驚きを隠せなかったが，彼らの知らぬ間に信仰を育んでいた優来さんには，もう準備ができていた。

ところで，未成年者のバプテスマには保護者の許可がいる。優来さんが英会話に通い始めた当初は，両親からかなりの反対を受けていた。両親は留学にも反対だったが，娘の思いは止められそうもない。そんな中，ギブソン姉妹たちが度々香川家を訪れるようになった。両親に気持ちよくあいさつをし，たくさんの奉仕をして帰っていく。「神様みたいな子」――彼女らは香川家の中で高い評価を受けるようになった。さらにギブソン姉妹は，「渡米後も娘さんを見守り続けます」と優来さんの家で両親に話していた。信頼できる人が娘の身近にいるのは大変ありがたいと，両親も心を和らげる。ギブソン姉妹たちのたゆまぬ奉仕と慈愛の賜物であった。最終的には留学も，教会への改宗も，両親は首を縦に振ってくれた。――そうして迎えた2016年7月4日のアメリカ独立記念日，優来さんはついにバプテスマの門をくぐる。ギブソン姉妹とカー姉妹が神戸と高松から駆けつけ見守る中，丸亀支部の会員のアーロン・エリス兄弟がバプテスマを施してくれたのだった。

ひいおばあちゃんに心を向けて

優来姉妹は2016年8月初旬に渡米する。空港への送迎や大学が始まるまでの滞在先など，バプテスマを施してくれたエリス兄弟の母親が手配してくれていた。その秋の新学期から，アメリカでの留学生活がスタートする。

アメリカで最初のクリスマス，優来姉妹は母方の大叔母とインターネット通話をした。そこで自身が改宗したこと，アメリカで教会員にすごくお世話になっていることを伝える。すると大叔母は――

「え？ あなたの亡くなったひいばあちゃん，教会員だって知ってた？」
「教会員ってモルモン？」
「そうだよ」

大叔母は小学5,6年生の頃，母親（優

Single Adults
――若い世代と先祖

来姉妹の曾祖母）に連れられて山口県柳井市の教会へ行っていたというのだ。優来姉妹の両親ですら知らなかった事実。大叔母は当時の記憶をたどり，家をよく訪ねてくれた宣教師が，ホキ長老と紙谷長老という同僚組であったと教えてくれた。

通話を終えるやいなや，優来姉妹はアメリカから柳井ワードに国際電話をかける。出てくれた会員に調べてもらうと，大叔母の言うとおり1957年8月10日，曾祖母の家室（かむろ）スミ子姉妹は末日聖徒となっていた。戦後日本の伝道が始まって間もない時期，なぜ曾祖母が山口県で福音を知り得たのか。後に柳井の古い会員に聞くと，ある姉妹のストーリーを教えてくれた。彼女は「写真花嫁」※6として戦前に柳井からハワイへ渡り，そこでご主人と改宗。ハワイから度々帰国されていたご夫婦は，故郷に教会がないことを残念に思い，伝道部会長に要請して1950年に，山口県で初めての集会所を柳井に開設する。奇くもそこが，家室姉妹の地元であった。

自分は普通の改宗者だと思っていたのに，先祖が初期の改宗者であったとは！興奮を抑えきれず，バプテスマを施してくれた丸亀支部のエリス兄弟に「聞いてよ聞いてよ！」とネット通話で喜びを分かち合った。するとエリス兄弟は――

「え，待って？ 紙谷？」
「そう，紙谷長老」
「紙谷兄弟，知ってるよ」

かつて彼と同じ小岩ワードに集っていたというのだ。早速連絡を取ってもらうと，紙谷兄弟からはうれしい言葉が返ってきた。「もちろん覚えてるよ。彼女はまさに自分が教えた求道者だから。」

＊＊＊

※3―『わたしの福音を宣べ伝えなさい』6章参照
※4― アルマ32：26-27参照
※5―ブリガム・ヤング大学（BYU）は末日聖徒イエス・キリスト教会が運営するアメリカ最大級の私立大学。プロボ本校，アイダホ校，ハワイ校，エンサインカレッジを擁する
※6―日本からハワイやアメリカ本土へ移住した男性と，写真や履歴書を交換するだけで実際に会うことなく結婚式を挙げ，入籍することでビザを発給されて渡航した女性，またはその習慣。英語ではPicture Brideと呼ぶ

スキーをする保喜長老と紙谷長老

2019年秋，丸亀支部での「奇跡の一枚」
優来姉妹，吉橋 誠長老，ブランドン保喜長老

保喜重親さん（左端）は明治末期にカナダへ渡り，東洋人差別の少ないユタ州へ移った。右から2人目の眼鏡の男の子が光雄兄弟

2013年頃の保喜家族。中央の青い縦縞のシャツがマーレー・光雄兄弟

優来姉妹の大叔母が持っていた写真。左端が保喜長老，中央が大叔母

東京の外資系企業でインターン中の優来姉妹

2019年，金刀比羅宮の秋祭りにて

保喜家が所蔵する，家室スミ子姉妹（右端）と前列左端が子供時代の優来姉妹の祖父。家室家室姉妹に連れられて柳井の教会へ行ってい

子供たちの家族写真
姉妹の左隣が大叔母。
た1950年代の写真

光雄兄弟の娘のリンダ姉妹と卓上にあるのは宣教師時代の日記

自身のエンダウメントを受けた日にギブソン姉妹と

2018年夏。日本へ帰省した優来姉妹は紙谷冨保兄弟との対面を果たした。当時，日本に伝道部はただ一つで，山口県に来る前からホキ長老を知っていたという紙谷兄弟。北海道でスキーをしている写真も見せてくれた。ホキ長老はハワイ出身で黒縁眼鏡をかけているという，大叔母の情報どおりの人だった。

わたしたち，会ってるよ！

翌2019年の秋学期。BYUアイダホ校に通っていた優来姉妹は，卒業後を見据えて東京でのインターンシップに参加した。その多忙なスケジュールの合間を縫って数日間だけ香川へ帰省する。月曜日の午前中に到着するも，インターンシップの課題に追われ，気づくと日が暮れていた。実家に戻る道すがら，宣教師にあいさつだけでもしようと，丸亀支部で開かれている集会「家庭の夕べ」※7に顔を出した。そこで一人の長老宣教師に声をかけると，共通の友人がいることが分かった。出会った記念に，共通の友人に写真を送ろうということになり，同僚の宣教師も誘って3人で写真をパシャリ。同僚の保喜長老はユタ州出身だという。日本語が流暢で，名札は漢字名，外見も日本人に見えるのに海外出身なんだな，そのときはそんな印象を持っただけだった。

その後，アメリカに戻った優来姉妹は，最終学年の2021年7月，インターンとして働くために，大学のあるアイダホ州からユタ州へ移ることにした。そして，ある日の独身成人の活動からの帰り道，優来姉妹は神戸伝道部の帰還宣教師たちの車に同乗させてもらうことになった。車内で優来姉妹と曾祖母の改宗談を分かち合っていると，ある名前に二人が反応した。

「ホキ？！」――彼らの同期に，「ホキ」という名字の長老がいたのだという。曾祖母を導いたホキ長老はハワイ人だと思っていたので関係ないと思ったが，その名字は珍しいから何かつながりがあるはずだと言う二人の熱意に押され，後日，曾祖母の名前を伝えた。

数日後にfacebookを開くと，見知らぬ人から友達申請が来ている。名前は「Brandon Hoki」。メッセージを送ってみると，すぐに驚くべき返信があった。

「君のひいおばあちゃんを教えた人が，ちょうどぼくの曾祖叔父（曾祖父の弟）なんだ。」

――聞くと，1950年代に柳井支部で家室姉妹を教えた曾祖叔父のマーレー・光雄・保喜長老は日系アメリカ人。1906年（明治39年）に移民した高祖父の保喜重親さんは香川県三豊市三野町の出身だった。みの駅は丸亀駅からJRでわずか20分あまり。子孫のブランドン・保喜長老は丸亀支部で伝道中に，保喜家の子孫にも会うことができたという。

丸亀支部にいた時期を尋ねると，ちょうど優来姉妹のインターンシップの時期と重なる。共通の友人に写真を送ったことを思い出し，慌ててスマホの履歴に残っていた写真を拡大してみると，長老の名札には「保喜」の文字が。

「わたしたち，一回会ってるよ！」

ブランドン兄弟に急いで写真を転送した。あの日，自分の曾祖母を導いたホキ長老の子孫と，丸亀で出会っていたなんて……二人は大きな驚きに包まれた。「一つでもタイミングがずれていたら会っていなかった……本当に神様に導かれていたんだなって思いました。」

アメリカでたどる曾祖母の足跡

家室姉妹の改宗に関わった光雄兄弟は他界しているが，その娘のリンダ姉妹が伝道中の日記やアルバムを預かっているという。光雄兄弟は仕事の都合でハワイに移り，ハワイから伝道に出たためハワイ出身と名乗っていたらしい。

光雄兄弟の持っていた写真を送ってもらうと，着物姿の家室姉妹，幼い祖父と大叔母が写っている。優来姉妹は，はやる気持ちを抑えて写真を家族に転送した。優来姉妹の親族でさえ持っていなかった白黒の家族写真。うちは海外と深い関わりなどないはずなのに，なぜアメリカにこんな写真があるのか……全員が目を丸くした。

驚きの波は保喜家にも広がっていた。60年以上もの時を経て，宣教師と改宗者であった二人の子孫同士が出会う日が来るとは。普段，BYUハワイ校に通っているブランドン兄弟はちょうど数日前にユタ州へ帰省したばかり。優来姉妹のアパートから車でたった20分の距離だった。

後日，娘のリンダ姉妹宅で光雄兄弟の伝道中の記録に接した。かつて東京で紙谷兄弟に見せてもらったスキー写真。同じ場面を今はユタ州で見ている。不思議な感覚に襲われた。――「カムロ姉妹が英会話に来ていた」「求道者として霊的に成長している」「転任の荷物のパッキングをカムロ姉妹に手伝ってもらった，ありがとう」……筆記体で綴られた日記には，そんな記録が残されていた。

紙谷兄弟によると，曾祖母は英語が大好きで，知的好奇心と行動力に溢れていたという。優来姉妹と同じく英語を学びたくて教会に来て，福音を知ったのだ。当時としては珍しく大学卒で，高校で教鞭をとっていた。大叔母も，彼女が現代に生きていたらきっと留学してたよ，と言う。家室姉妹は優来姉妹が9歳のときに他界したが，「若い頃の曾祖母と自分にたくさんの共通点，つながりを見つけることができて，すごくしんみりしたんです。」

霊界からの働きかけ

少しさかのぼった2021年6月。ブランドン・保喜兄弟と再会を果たす数か月前のこと。ふと優来姉妹はエンダウメントの儀式※8を受けたいと思った。伝道や結婚の予定はない。周囲にもなぜ今なのかと聞かれた。何かが自分を後押ししている。――神殿について学び，面接を受け，無事に自身の儀式を終えた。

間もなくユタ州へ移ると，保喜家とのつながりが判明した。卒業後は日本に帰国する優来姉妹と，いずれはBYUハワイ校に戻るが今はユタに留まっているブランドン兄弟。これほどのタイミングで出会うとは，先祖が働きかけているに違いない，と協力して家族歴史に取り組むことにした。優来姉妹からの情報で，光雄兄弟とハワイとのつながりも分かってきた。神殿では，ブランドン兄弟に男性側の代理を務めてもらいつつ，先祖の儀式を受けていく。4世代前の宣教師と求道者の末裔同士が，一緒に先祖の救いの業に携わっている。

「丸亀で英会話に行き出したときは，まさかこんな日が来るとは思ってもみなかったです。不思議ですよね。」

自分独りの命ではない

優来姉妹は，進路について思い悩んだ末，帰国して2022年の初めからファッションブランド企業で働き始めた。

昔からファッションは好きだったが，自分の選択に確信が持てなかった。ところが家族歴史を探究するうちに，母方の祖母の母（山口のもう一人の曾祖母）が柳井の商店街で洋品店を営んでいたことを知って，背中を押された思いがしたという。

「家族歴史が人生にすごく必要でした。自分がどういう人間なのか，何に長けているのかを知り，その先祖からいただいた共通点，興味関心や才能，スキルを伸ばして社会に貢献したいと思えるようになったんです。海外で生活した経験を生かすなら，日本で英語を使って仕事をした方が絶対に貢献度が大きい，とか。

また，自分のことを大事にできるようになったんです。例えば，顔のある部分が

※7―末日聖徒イエス・キリスト教会では，毎週月曜日に家族が集まって一緒にきずなを強める活動をするよう推奨されている。独身会員や宣教師は教会に集まって交流する

※8―末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿の中で行われる儀式。神の教えを深く学び，その教えを守ると約束する。伝道や結婚を契機として受けることが多い。まず自分自身のために受け，後に先祖の代理として受けることができる

香川優来姉妹

嫌いだから隠そうとしていたのを，先祖からいただいたものだから，それを生かしたメイクをしようと考えるようになりました。先祖を尊く思っているからこそ，自分の命も自分だけのものじゃない，と深く感じています。それを通して大胆な決断や行動ができるようになりました。」

信仰心の本当の意味

最近，山口の先祖について知るためにそれまで交流のなかった横浜の大叔父（亡くなった祖母の弟）から話を聞くようになった。今年，就職のための帰国に当たって隔離期間のホテル費用をどう工面するか悩んでいたところ，大叔父が援助を申し出てくれ，道が開けたという。

「最近は，『御心ならば道を開いて，御心でなければ道を閉じてください』って祈るんです。これまで苦労したこと，悲しいこと，思い通りにいかないことはたくさんあって。当時はつらかったけど，今振り返ってみたら何一つ無駄なことはない，あれで良かったんだって本当に思えるんです。そうでなければ今のわたしはないし，こういう祝福が欲しいって祈ったことより，実際に起きた祝福の方が，自分の想像を超えて何倍も大きいんですよ。」

「この５年間で本当の Faith，信仰心っていう言葉の意味の深さを知りました。神様の御心のとおりにいけばいい，と最近思えるようになって。神様はわたしたち一人一人のために幸福の計画を持っておられるから，神様の教えをちゃんと守っていたら悪いようには絶対ならない。そういう強い思い，ビリーフがあって初めて，恐れや不安に打ち勝って人生を突き進んでいけるんです。」◆

専任宣教師のご紹介

新型コロナウイルスの世界的流行を受けて，専任宣教師のご紹介は教会公式ウェブサイトで行っています。紹介一覧は以下リンクから PDF 形式でダウンロードいただけます。

https://bit.ly/3buW2J8

なお，写真の掲載は**自己申告制**となります。掲載をご希望の方は，宣教師申請書の提出写真とは別途に，**画像データ**または**写真プリント**を**電子メール**または**郵送**で，**リアホナ編集室**（メールアドレス／宛先は右に記載）へお送りください。その際，「**お名前/ふりがな，召された伝道部名，出身ステーク/地方部・ワード/支部名，オンライン訓練開始予定日**」の情報を必ず添えてください。頂いたお写真をウェブサイトに掲載いたします。どうぞ，よろしくご理解，ご協力を賜りますよう，お願い致します。

リアホナ日本語版編集室

皆様の情報をお寄せください

会員の皆様の身近な話題をご紹介ください

◎『リアホナ』日本語版編集室
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-8-8
TEL. 03-4545-3100（代）
電子メール：
JPNLiahona@churchofjesuschrist.org

◎**国際機関誌『リアホナ』のお届け**，その他商品に関するお問い合わせ――
教会配送センター
TEL. 03-5668-3391
FAX. 03-5668-3392

役員の異動

2021年12月20日から2022年1月22日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

- 札幌ステーク厚別ワード
  ビショップ：西原（にしはら） 喬志（たかし）
- 日本高松地方部
  第一顧問：木島（きじま） 直人（なおと）
- 高松地方部徳島支部
  会長：河南（かわみなみ） 真吾（しんご）

今月のNews Headlines

◉ニュースルームはこちら！
https://news-jp.churchofjesuschrist.org

◉ 6人の使徒，全世界の地域ディボーショナルでヤングアダルトに話す　1月13日リリース
◉ 東京神殿訪問者センターのメイキング映像を公開　1月16日リリース

※上記リストは日本発信または日本に関連する記事のみです。海外発信記事（日本語）も数多く配信しています。

ASIA NORTH AREA (JAPANESE)